

編集後記

『人間科学研究』第7巻第1号をお届けします。本学学会の組織再編に伴い、今号より発行所の名称が「金沢星稜大学人間科学会」から「金沢星稜大学学会人間科学部会」へと変更されました。しかし、会誌名と構成に変更はありませんので、ご了承ください。

さて今号は、こども学科4件、スポーツ学科4件の研究成果が寄せられました。

佐藤氏は、亀岡氏が開発した算数科においてノートに自分のイメージや思考過程を可視化し内言化するために漫画のふきだしを使って書く学習法について具体的な事例から考察。

清水氏は、国際交流壁画共同制作プロジェクトの輪を小学校だけではなく、中学校・高等学校へと広げるため、校種別に取り組みの実態を調査し協働学習の連携の在り方を模索。

高氏は、個別的な教育相談と集団的な学校運営の均衡を図るためのハブ機能を管理職の校長の役割に求め、個々の子ども・学級集団・保護者・教職員・S Cとの良好な関係性を探究。

村井氏は、アメリカの学校を視察し授業時におけるタブレット PC 活用の具体例を日本と比較。鉛筆と用紙から指先と PC へ、パラダイムシフトが確実に進行している現状を報告。

井上氏は、世界知的障害者陸上競技選手権大会に日本選手団副団長として参加し情勢を報告。2020年オリンピック・パラリンピック東京開催も決定しスポーツ文化振興は新局面。

神野氏らは、金沢市のスポーツ実施状況に関するアンケート調査やデータの収集と分析から、潜在的な実施者の阻害要因は条件や属性の制約では、時間>金銭であることを証明。

島田氏らは、左打者と右打者の打撃動作について、スイングからインパクトまでパラメータで測定し三次元画像で解析。左打者の「ボールを引きつける⇔差し込まれる」を示唆。

田島氏らは、総合型地域スポーツクラブの経営状況を財務指標から分析。スポーツ機会の創造+保健・医療・福祉等の事業性を高めつつ公益性を担保していくという課題を呈示。

以上、「子どもと教育&スポーツと社会⇒人間科学部」という特徴が出ていると思います。

どうぞ高覧ご批正くださいますよう、宜しく願い申し上げます。

2013年9月吉日

編集委員長 馬場 治

《投稿された論文等に関する著作権は基本的に人間科学部会に帰属します》